

<第4議案>

2015年度収支予算(案)

15ページの2015年度収支予算書をもって、2015年度収支予算とする。

<説明>

2015年度収支予算のポイントは以下の通りである。

※ 以下、増減は、2014年度決算額との比較

2015年度は、代表、常勤スタッフ2人(1人は年度途中から)の計3人体制を前提に、調査委託の新規開拓などに努めるが、単年度収支差額ゼロを見込む。2015年度末の繰越金は約469万円となる。

年会費増をはじめ、ここにあげられた会費収入、事業収入、寄付金収入はすべて意欲的な見積もりであり、収入増、経費削減における相当の努力が必要である。が、特に年会費については、5年以上にわたり予算比で慢性的に大きな不足が起きる状態が続いており、この点は、意欲的な面も含めつつやや現実的な予算としている。

1. 会費収入について

会費収入全体は約79万円の収入増を見込んでいる。これは、2014年決算において年会費の回収率が約87%あったことを勘案し、会費督促ならびに新規会員・購読者獲得努力によって増額を見込むものである。会員・購読者数の正味増は賛助会員相当で20口と見積もっており、予想される退会者、購読中止者の数を勘案すると、目標達成のためには、新規会員・購読者50名程度を獲得しなければならない。会員一人一人に新規会員・購読者の獲得にご協力いただきながらの努力を継続する。

2. 事業収支について

- ・事業収入は約39万円の増、支出は約107万円の増を見込む。
- ・イアブックでは、「2015年版」作成により収支黒字73万円(収入153万円、支出80万円)を見込む。「2014年版」は42万円を見込む。
- ・ブックレット作成により収支黒字10万円(収入40万円、支出30万円)を見込む。
- ・講演・執筆は50万円を見込む。
- ・調査受託費として130万円を見込む。
- ・個人寄付金を募る工夫をすることで、寄付金収入として100万円を見込む。
- ・モニター刊行20周年行事として55万円の支出を見込む。

3. 助成金収入について

新規に30万円の助成金収入を見込む。

4. 管理費について

- ・給料手当は、1年を通じた代表、常勤スタッフ2人(1人は年度途中から)の3人体制を予定する。
- ・役員報酬として63万円を見込む。
- ・2015年NPT再検討会議派遣費として約65万円を見込み、旅費を95万円とする。
- ・「将来計画資金会計」から、「ピースデポ協力研究員」1人分の経費39万円の支出を見込む。